

小峯和明教授 自筆略譜及び主要研究業績

略 譜

〈生誕〉

一九四七年一月二日 静岡県熱海市上多賀に生まれる。景德院の保育園に二年間通う。

〈学歴〉

一九五四年四月 静岡県熱海市立多賀小学校入学

一九六〇年三月 同上・卒業

一九六〇年四月 神奈川県湯河原町立湯河原中学校入学

一九六三年三月 同上・卒業

一九六三年四月 神奈川県立小田原高等学校入学

一九六六年三月 同上・卒業

一九六六年四月 一九六七年一月 代々木ゼミナールに通う

一九六七年四月 早稲田大学・第一文学部入学

一九七一年三月 同上・日本文学専修卒業

一九七一年四月 早稲田大学大学院・文学研究科日本文学専攻・修士課程入学

一九七四年三月 同上・修了

一九七四年四月 同上・博士課程入学

一九七七年三月 同上・日本文学専攻単位取得退学

〈学位〉

一九八七年三月 文学博士 早稲田大学

〈職歴〉

一九七三年四月 早稲田実業学校・専任講師

一九七四年四月 同上・教諭

一九七九年三月 同上・退職

一九七九年四月 徳島大学教養部・専任講師

一九八一年四月 同上・助教授

一九八四年四月 国文学研究資料館文献資料部・助教授 配置転換

一九九五年三月 同上・退職

一九九五年四月 立教大学文学部・教授

二〇一三年三月 同上・定年退職

〈非常勤・集中講義〉

○非常勤

- 一九八五―一九四年 中央大学文学部
- 一九八五―九一年 埼玉大学教養学部
- 一九八六―二〇〇〇年、〇三―〇五年 早稲田大学文学部（第一、第二）
- 一九九三年 早稲田大学大学院
- 一九九二―二〇〇〇年 武蔵大学人文学部
- 一九九三年、二〇〇四年 立正大学文学部
- 一九九六―九七年、二〇〇二―〇三年 慶応大学大学院
- 一九九七―九八年 上智大学文学部
- 一九九八―二〇〇〇年 成城大学文芸学部
- 二〇〇〇年 成城大学大学院
- 一九九九―二〇〇〇年、二〇〇二―〇六年 鶴見大学大学院
- 二〇〇二年 東京大学文学部
- 二〇〇二年 お茶の水女子大学大学院
- 二〇〇三年 お茶の水女子大学文学部
- 二〇〇四―〇五年 上智大学大学院

二〇〇四―〇七年、二〇一三年） 国際基督教大学教養学部

○集中講義「日本」

- 一九八七年七月 信州大学人文学部
- 一九九〇年二月 琉球大学法文学部
- 一九九〇年七月 広島大学文学部
- 一九九三年七月 秋田大学教育学部
- 一九九三年八月 沖縄国際大学文学部
- 一九九三年九月 静岡大学人文学部
- 一九九五年一二月 広島女子大学文学部
- 一九九七年七月 横浜国立大学教育学部
- 一九九七年一二月 琉球大学法文学部
- 二〇〇二年七月 九州大学文学部
- 二〇〇三年九月 静岡大学人文学部
- 二〇〇七年九月 新潟大学人文学部
- 二〇一〇年七月 福岡大学大学院
- 二〇一〇年九月 愛知県立大学日本文化学部
- 二〇一一年一二月 福岡大学大学院

二〇一三年九月 京都大学文学部

○集中講義「海外」

一九九九年二月五月 北京日本学研究センター 専家派遣

二〇〇一年八月九月 南開大学日本学研究所 派遣研究員

二〇〇一年九月一〇月 コロンビア大学東アジア学部・ドナルドキンセンタ― 招聘研究員

二〇〇八年一〇月 北京日本学研究センター 専家派遣

二〇〇八年一一二月 コロンビア大学東アジア学部 派遣研究員

二〇〇九年二月三月 フランス国立高等研究院 客員研究員

二〇一〇年六月 韓国外国語大学校

二〇一二年一〇月 ハイデルベルグ大学 研究員

二〇一三年三月 パリ第七大学 派遣研究員

二〇一三年四月 ハノイ大学

二〇一三年九月～二〇一六年八月 中国人民大学 講座教授

二〇一三年一月 韓国・崇実大学校

二〇一三年十二月 ハノイ大学

〈受賞歴〉

一九八一年 早稲田大学国文学会・窪田空穂賞受賞

一九八二年 日本古典文学会賞受賞

〈海外での活動、講演、国際学会発表〉

一九九六年四月 アメリカアジア学会・ハワイ パネル発表「絵巻の物語と絵画」

一九九八年一〇月 コロンビア大学中世文化研究所・講演「中世の未来記」

一九九八年一一月 コロンビア大学中世文化研究所・シンポジウム「宝鏡寺の和古書」

二〇〇一年三月 台湾大学国際学術研討会「敦煌願文集と日本中世の唱導資料」

二〇〇一年六月 フランス高等研究院・講演「中世の未来記」

二〇〇一年六月 フランス東洋言語文化研究院・講演「今昔物語集の門」

二〇〇一年九月 大連外国語大学学会・発表「絵のなかの言葉」

二〇〇一年九月 南開大学日本学研究所・シンポジウム「東アジアの漢文説話」

二〇〇一年九月 インディアナ大学・講演「絵巻のイメージとテキスト」

二〇〇一年一〇月 イェール大学・講演「中世の未来記」

二〇〇一年一〇月 コーネル大学・講演「絵巻の物語と絵画」

二〇〇一年一一月 韓国外国語大学・講演「中世の説話研究の現状」

二〇〇二年一〇月 北京日本学研究中心・学会「今昔物語集の翻訳をめぐる」

二〇〇二年一〇月 コロンビア大学・神道国際学会・シンポジウム「神道集の神仏、中世神話」

二〇〇三年三月 アルザス日本学研究所国際会議・講演「イメージの釈迦―物語と絵画」
二〇〇三年四月 アメリカアジア学会・ニューヨーク パネル発表「議会図書館及びイエール大学所蔵・朝河収
集本をめぐって」

- 二〇〇三年九月 ヨーロッパ日本学会・ワルシャワ大学 パネル発表「神道集の女性」
二〇〇五年三月 コロンビア大学・源氏物語国際シンポジウム「源氏物語と説話・お伽草子」
二〇〇五年九月 コロンビア大学・講演「酒吞童子絵巻と権力」
二〇〇五年十一月 ICUシンポジウム「百鬼夜行絵巻とパロディ」
二〇〇六年二月 東大COEシンポジウム「死の向こう側―身体・イメージ・パロディ」
二〇〇六年三月 ソウル女子大学・講演「その後の浦島太郎」
二〇〇六年四月 アメリカアジア学会・サンフランシスコ パネル発表「お伽草子の環境・食文化」
二〇〇六年六月 韓国日語日文学会・清州大学 講演「東アジアの仏伝文学」
二〇〇六年八月 ブリティッシュコロンビア大学・シンポジウム「旅する聖徳太子」
二〇〇六年九月 フランスINALCO・講演「百鬼夜行絵巻」
二〇〇六年十一月 立教大学日文創設50周年シンポジウム「異文化交流と翻訳の東西」
二〇〇七年三月 フランスINALCO・源氏物語シンポジウム「源氏物語とお伽草子」
二〇〇七年三月 アルザス日本学研究所・シンポジウム「キリシタン文学と天狗」
二〇〇七年四月 日仏会館・絵画シンポジウム「釈迦の本地の物語と絵画」
二〇〇七年五月 ロンドン大学SOAS・シンポジウム「見える鬼、見えない鬼」

二〇〇七年六月 アメリカアジア学会・日本支部 シンポジウム「絵巻と身体」

二〇〇七年九月 北京日本学研究センター・講演「今昔物語集の羅生門」

二〇〇七年九月 山東大学日本文学会・基調講演「東アジアの仏伝文学」、青島大学・講演「十二類絵巻を読む」

二〇〇七年一〇月 フランス INALCO・講演「未来記を読む」、パリ第七大学・講演「十二類絵巻の画中詞」

二〇〇七年一一月 韓国外国語大学校・基調講演「東アジアのクリシタン文学」

二〇〇八年三月 ダブリン、チェスター・ピーティー・ライブラリー・シンポジウム「絵巻を読む」

二〇〇八年三月 韓国崇実大学校・講演「物言う動物たち」

二〇〇八年四月 コロンビア大学・講演「釈迦の本地を読む」

二〇〇八年六月 パリ第七大学・平家物語シンポジウム「天草本平家物語の世界」

二〇〇八年八月 中国東北師範大学・講演「羅生門を読む」

二〇〇八年九月 ヨーロッパ日本学会・イタリア・レッツェ パネル発表「精進魚類物語を読む」

二〇〇八年九月 アルザス日本学研究所・お伽草子シンポジウム「絵巻の番付」

二〇〇八年一〇月 北京日本学研究センター・講演「東アジアの研究状況から」、清華大学・講演「東アジアの

文学圏」

二〇〇八年一一月 ハーバード大学・国文研シンポジウム「須弥山の言説と図像」

二〇〇九年三月 フランス高等研究院 セミナー「聖徳太子未来記を読む」

二〇〇九年三月 ライデン大学・講演「お伽草子の動物たち」

二〇〇九年三月 パリ日本館 シンポジウム「お伽草子とパロディ」

- 二〇〇九年三月 ベネチア大学・講演「釈迦の本地の世界」
- 二〇〇九年三月 アルザス日本学研究所・シンポジウム「説話のタブー、タブーの説話」
- 二〇〇九年一月 インドネルー大学・日文研シンポジウム「須弥山の図像と言説」
- 二〇一〇年一月 立教大学・環境文学シンポジウム「南方熊楠と熊野世界」
- 二〇一〇年二月 ロンドン大学SOASシンポジウム「南方熊楠と比較説話学」
- 二〇一〇年三月 北京日本学研究センター・基調講演「東アジアの今昔物語集」
- 二〇一〇年六月 韓国外国語大学校・講演「吉備大臣入唐絵巻を読む」
- 二〇一〇年六月 韓国日語日文学会・大邱大学校・基調講演「龍宮と冥途―志度寺縁起の世界」
- 二〇一〇年九月 アルザス日本学研究所・講演「狂言と笑い」
- 二〇一〇年九月 フランスINALCO・講演「日本文学と笑い」
- 二〇一〇年九月 フランス国立図書館・セミナー「くずし字を読む」
- 二〇一〇年一〇月 北京日本学研究センター30周年・招待シンポ「日本学の未来」
- 二〇一〇年一〇月 ベトナム漢喃研究院・基調講演「東アジアの今昔物語集」
- 二〇一〇年一月 韓国建国大学校・講演「幻想の異文化交流―往く人、来る人」
- 二〇一一年五月 韓国延世大学・講演「口伝と聞書―語ることと書くこと」
- 二〇一一年八月 ルーマニア・クリスチャン大学・シンポジウム「釈迦の本地と須弥山」
- 二〇一一年九月 コロンビア大学・国文研シンポジウム「龍宮をさぐる」
- 二〇一一年一〇月 コロンビア大学・宗教文化シンポジウム「涅槃会をめぐる」

二〇一一年一月 フランスINALCO・基調講演「〈予言文学〉の世界、世界の〈予言文学〉」

二〇一二年二月 中国人民大学・基調講演「琉球神道記を読み直す」

二〇一二年七月 清華大学・シンポジウム「天竺をめざした人々」

二〇一二年八月 中国日本文学会・蘭州大学・講演「釈氏源流と釈迦の本地」

二〇一二年一〇月 ハイデルベルグ大学・セミナー「絵巻の世界」

二〇一二年一月 ハノイ大学・セミナー「絵巻の絵と言葉」

二〇一二年一二月 韓国崇実大学校・説話文学会シンポ・基調講演「東アジアの今昔物語集」

二〇一二年一二月 北京日本学研究センター・講演「朝鮮の説話、説話の朝鮮」

二〇一三年三月 フランスINALCO・講演「龍宮をさぐる」

二〇一三年三月 パリ第七大学・講演「『釈迦の本地』の絵と物語」

二〇一三年六月 北京日本学研究センター・講演「〈仏伝文学〉と女人―物語の原点として」

二〇一三年六月 立教大学ドイツ文学専修国際シンポジウム・基調講演「日本中世の神話世界―異文化としての

中世」

二〇一三年一〇月 ハノイ大学創設四十周年記念国際シンポジウム「日本と東アジアの〈仏伝文学〉」

二〇一三年一〇月 韓国国文学会・ソウル大学奎章閣・基調講演「東アジアの古典の形成と再生―日本の古典を

中心に」

二〇一三年一月 清華大学・孝文化シンポジウム「〈仏伝文学〉と孝養」

二〇一三年一月 韓国放送大学・講演「授乳の神話学」

主要研究業績

【単著・編著・監修】

- 『今昔物語集の形成と構造』笠間書院、一九八五年一月（学位論文）
- 『今昔物語集と宇治拾遺物語 ― 説話と文体』（編著）有精堂出版、一九八六年七月
- 『今昔物語集・宇治拾遺物語』（編著）新潮古典文学アルバム、新潮社、一九九一年一月
- 『説話の森 ― 天狗・盗賊・異形の道化』大修館書店、一九九一年五月
- 『今昔物語集の形成と構造 補訂版』笠間書院、一九九三年五月
- 『中世説話の世界を読む』岩波セミナーブックス、岩波書店、一九九八年一月
- 『宇治拾遺物語の表現時空』若草書房、一九九九年一月
- 『四字熟語辞典 ― ポケット判』（監修）高橋書店、一九九九年二月
- 『同音語使い分け辞典 ― ポケット判』（監修）高橋書店、二〇〇〇年五月
- 『説話の声 ― 中世世界の語り・うた・笑い』新曜社、二〇〇〇年六月
- 『今昔物語集 索引』（編）新日本古典文学大系 別巻「四」、岩波書店、二〇〇一年四月
- 『宝鏡寺蔵『妙法天経解釈』全注釈と研究』（編著）笠間書院、二〇〇一年七月
- 『説話の森 ― 中世の天狗からイソップまで』岩波現代文庫、岩波書店、二〇〇一年九月
- 『説話の言説 ― 中世の表現と歴史叙述』森話社、二〇〇二年六月
- 『今昔物語集の世界』岩波ジュニア新書、岩波書店、二〇〇二年八月

『今昔物語集を学ぶ人のために』（編著）世界思想社、二〇〇三年一月

『平家物語』の転生と再生（編著）笠間書院、二〇〇三年三月

『野馬台詩』の謎 ―歴史叙述としての未来記』岩波書店、二〇〇三年十一月

『院政期文学論』笠間書院、二〇〇六年一月

『中世日本の予言書 ―〈未来記〉を読む』岩波新書、岩波書店、二〇〇七年一月

『今昔物語集を読む』（編著）歴史と古典、吉川弘文館、二〇〇八年十二月

『中世法会文芸論』笠間書院、二〇〇九年六月

『漢文文化圏の説話世界』（編著）竹林舎、二〇一〇年四月

『図説あらすじでわかる★今昔物語集と日本の神と仏』（監修）青春出版社、二〇一二年四月

『東アジアの今昔物語集 ―翻訳・変成・予言』（編著）勉誠出版、二〇一二年七月

『東アジア笑話比較研究』琴栄辰著（監修）勉誠出版、二〇一二年七月

『日本文学史 古代・中世編』（編著）ミネルヴァ書房、二〇一三年三月

『東奔西走』笠間書院、二〇一三年三月

【共著・共編著】

『今昔物語集』（森正人、共編著・校注）ほるぷ出版、一九八七年七月

『説話の講座』（阿部泰郎、池上洵一、本田義憲、森正人共編著）勉誠出版、全六巻、一九九一年五月―一九九三

年四月

『中世の知と学 ―〈注釈〉を読む』（三谷邦明、共編著）森話社、一九九七年一二月

『日本霊異記を読む』（篠川賢、共編著）吉川弘文館、二〇〇四年一月

『義経地獄破り ―チエスター・ピーティ― ライブラリイ所蔵』（宮腰直人、共編著）勉誠出版、二〇〇五年二月

『三宝絵を読む』（小林真由美・小島孝之、共編著）吉川弘文館、二〇〇八年二月

『源氏物語と江戸文化 ―可視化される雅俗』（小嶋菜温子・渡辺憲司、共編著）森話社、二〇〇八年五月

『文学に描かれた日本の「食」のすがた ―古代から江戸時代まで』（シラネ・ハルオ、渡辺憲司、共編著）（『解
釈と鑑賞』別冊、至文堂、二〇〇八年一〇月）

『古琉球をめぐる文学言説と資料学 ―東アジアからのまなざし』（池宮正治、共編著）三弥井書店、二〇一〇年
一月

『新羅殊異伝 ―散逸した朝鮮説話集』（増尾伸一郎、共編著・校注）東洋文庫、平凡社、二〇一一年六月

【校注】

『今昔物語集 四』新日本古典文学大系三六、岩波書店、一九九四年一一月

『今昔物語集 二』新日本古典文学大系三四、岩波書店、一九九九年三月

【雑誌論文】（含、解題・翻刻・研究史）

「宇治拾遺物語の達成」（『早稲田実業学校研究紀要』八、一九七三年二月）

「宇治拾遺物語の伝承と文体（一） ―古本説話集との共通話から―」（『文芸と批評』四一三、同人の会、一九七

四年 二月

「宇治拾遺物語の成立と宇治大納言物語」（『国文学研究』五五、早稲田大学国文学会、一九七五年二月）

「宇治拾遺物語の伝承と文体（二）——古事談との交渉への疑問——」（『文芸と批評』四一四、一九七五年八月）

「位争い説話から真済悪霊譚へ——説話の歴史——」（『日本文学』二四—二六、日本文学協会、一九七五年十二月）

「相応和尚と愛宕山の太郎坊——説話の歴史——」（『早稲田実業学校研究紀要』一〇、一九七五年二月）

「宇治拾遺物語の伝承と文体（三）——十訓抄関係話をめぐって——」（『文芸と批評』四一五、一九七六年一月）

「今昔物語集における説話受容の方法」（『国文学研究』五九、一九七六年六月）

「宇治拾遺物語の伝承と文体（四）——打聞集説話との関連——」（『文芸と批評』四一六、一九七六年七月）

「今昔物語集の「端正」と「美麗」——美的語彙をめぐって——」（『日本文学』二六—二九、一九七七年九月）

「『今昔』『宇治拾遺』共通話をめぐる諸問題」（『早稲田実業学校研究紀要』一二、一九七七年十二月）

「悪逆の報い」（国東文磨他編『日本霊異記』早稲田大学出版部、一九七七年二月）

「教林文庫本『三井往生伝』翻刻と研究」（共著、伊地知鐵男編『中世文学 資料と論考』笠間書院、一九七八年

二月）

「前田家本『三宝感应要略集』と『今昔物語集』」（『説話文学研究』一四、説話文学会、一九七九年六月）

「『今昔物語集』漢文出典話の表現手法——霊験への眼——」（論纂 説話と説話文学——西尾光一教授定年記念論集』

笠間書院、一九七九年六月）

「今昔物語集天竺部の形成と構造」（『徳島大学教養部紀要』（人文・社会科学）一五、一九八〇年三月）

「今昔物語集の語り——その構築性——」（『日本文学』二九—二七、一九八〇年七月）

「俊頼髓腦」月のねずみ考 — 仏典受容史の一齣 — (『中世文学研究』六、中四国中世文学研究会、一九八〇年八月)

- 「今昔物語集天竺部の形成と構造 二」(『徳島大学教養部紀要』(人文・社会科学) 一六、一九八一年三月)
- 「説話文学における性表現 — 今昔物語集を中心に —」(『解釈と鑑賞』四六―四、至文堂、一九八一年四月)
- 「今昔物語集における語りの構造」(『日本文学』三〇―五、一九八一年五月)
- 「宇治拾遺物語」(『解釈と鑑賞』四六―八、一九八一年八月)
- 「大江匡房の高麗返牒 — 述作と自讃 —」(『中世文学研究』七、一九八一年八月)
- 「物語の視界五〇選 をこぜ」(『解釈と鑑賞』四六―一、一九八一年十一月)
- 「物語の視界五〇選 俵藤太物語」(『解釈と鑑賞』四六―一、一九八一年十一月)
- 「金言類聚抄について — 仏典類書の成立 —」(『仏教文学』六、仏教文学会、一九八二年二月)
- 「今昔物語集震旦部の形成と構造」(『徳島大学教養部紀要』(人文・社会科学) 一七、一九八二年三月)
- 「今昔物語集の表現構造 — 光と闇 —」(『日本文学』三一―四、一九八二年四月)
- 「江談抄の語り — 言談の文芸 —」(『伝承文学研究』二七、伝承文学研究会、一九八二年七月)
- 「『俊頼髓腦』と中国故事」(『中世文学研究』八、一九八二年八月)
- 「今昔物語集の語りと時間認識」(『国文学研究』七八、一九八二年一〇月)
- 「逸話で綴る作者一〇〇人の略伝 — 参議篁 — 元良親王」(『解釈と鑑賞』四八―一、一九八三年一月)
- 「研究余滴 (二七) 鰐考」(『日本古典文学会会報』九五、一九八三年二月)
- 「今昔物語集本朝仏法部の形成と構造」(『徳島大学教養部紀要』(人文・社会科学) 一八、一九八三年三月)

- 「『今昔物語集』の構造をめぐる」(『仏教文学』七、一九八三年三月)
- 「今昔物語集の〈今昔〉——語りと時間認識——」(『国文学研究』八〇、一九八三年六月)
- 「よしなしごと」(三谷栄一編『体系物語文学史』第三卷、有精堂、一九八三年七月)
- 「俊頼髓脳」の歌と語り」(『中世文学研究』九、一九八三年八月)
- 「今昔物語集本朝〈王法〉部の形成と構造」(『徳島大学教養部紀要』(人文・社会科学)一九、一九八四年三月)
- 「今昔物語集〈物語〉論(上)」(『日本文学』三三一四、一九八四年四月)
- 「今昔物語集〈物語〉論(下)」(『日本文学』三三一五、一九八四年五月)
- 「説話文学の種々相」(稲田利徳・佐藤恒雄・三村晃功編『中世文学の世界』世界思想社、一九八四年五月)
- 「今昔物語集本朝〈王法〉部論補説」(『説話文学研究』一九、一九八四年六月)
- 「今昔・宇治成立論の現在——宇治大納言物語の幻影など——」(『国文学』二九一九、一九八四年七月)
- 「大江匡房の往生伝と神仙伝」(『中世文学研究』一〇、一九八四年八月)
- 「今昔物語集の研究史(昭和三〇年以降)」(『解釈と鑑賞』四九一一、一九八四年九月)
- 「今昔物語集の表現形成——「頭ノ毛太リテ」を中心に——」(『リポート笠間』二五、笠間書院、一九八四年一〇月)
- 「金言類聚抄考補訂」(『仏教文学』九、一九八五年三月)
- 「今昔物語集の表現形成」(『国文学研究資料館紀要』一一、一九八五年三月)
- 「説話文学研究・八十年代の動向と展望」(『説話と歴史』(説話・伝承学会)桜楓社、一九八五年四月)
- 「大江匡房の狐媚記——漢文学と巷説のはざままで——」(『中世文学研究』一一、一九八五年八月)
- 「聖」(『国文学』三〇一一〇、学燈社、一九八五年九月)

「中世説話文学と絵解き」(編集部編『絵解き』(一冊の講座 日本の古典文学 三)、有精堂出版、一九八五年九月)

「説話文学研究の三十年」(『中世文学』別冊、中世文学会、一九八五年一〇月)

「(翻) 早大図書館蔵教林文庫本翻刻 ―山王関係資料三種」(共著、『調査研究報告』七、一九八六年三月)

「大鏡の語り―菩提講の意味するもの」(『国文学研究資料館紀要』一二、一九八六年三月)

「中世説話集の仏法・王法論」(『日本文学』三五―四、一九八六年四月)

「宇治拾遺物語と絵巻」(『説話文学研究』二一、一九八六年六月)

「説話と絵画」(『解釈と鑑賞』五一―六、一九八六年六月)

「唐物語小考」(『中世文学研究』一二、一九八六年八月)

「空海伝」(『解釈と鑑賞』五一―九、一九八六年九月)

「歴史叙述に焦点集まる ―文学研究の自立性の根拠が脆弱化」(『週刊読書人』一九八六年二月二二日号)

「唐物語の表現形成」(和漢比較文学会『和漢比較文学叢書』第四卷、汲古書院、一九八七年二月)

「(翻) 早大図書館蔵教林文庫本翻刻 ―山王関係資料二種」(『調査研究報告』八、一九八七年三月)

「狭衣物語と法華経」(『国文学研究資料館紀要』一三、一九八七年三月)

「中世の歴史叙述と虚構 ―太平記を中心に」(『日本文学』三六―三、一九八七年三月)

「今昔物語集の語り ―視点の移動」(平安文学論究会編『講座平安文学研究』第四輯、風間書房、一九八七年六月)

「今昔物語集の表題と物語」(『国文学研究』九二、一九八七年六月)

「絵解き研究の模索」〔『絵解き研究』五、絵解き研究会、一九八七年六月〕

「世俗説話集の語り ― 『宇治拾遺物語』を中心に」〔日本文学協会編『日本文学講座』三、大修館書店、一九八七年七月〕

「『江都督納言願文集』の世界（二） ― 堀河院追善願文を中心に」〔『中世文学研究』一三、一九八七年八月〕

「日本文学における〈虚構〉と〈他者〉」〔『日本文学』三六―九、一九八七年九月〕

「大鏡の語り ― 菩提講の光と影」〔『文学』五五―一〇、岩波書店、一九八七年一〇月〕

「今昔物語集の直喩表現」〔『日本の文学：Studies in Japanese literature 第二集』有精堂、一九八八年一月〕

「今昔物語集事典・宇治拾遺物語事典」（共編著、『別冊国文学』三三、一九八八年一月）

「大鏡の語り ― 語り手と筆者の位相」〔『日本文学』三七―一、一九八八年一月〕

「『澄印草等』について ― 付・翻刻」〔『国文学研究資料館紀要』一四、一九八八年三月〕

「〔翻〕早大図書館蔵教林文庫本翻刻（三） ― 山王関係資料三種」〔『調査研究報告』九、一九八八年三月〕

「院政期文学史の構想」〔『解釈と鑑賞』五三―三、一九八八年三月〕

「宇治拾遺物語の〈宇治〉の時空 ― 序文再考」〔『日本文学』三七―六、一九八八年六月〕

「『江都督納言願文集』の世界（二） ― 後三条院関連願文を中心に」〔『中世文学研究』一四、一九八八年八月〕

「華嚴縁起」〔三谷栄一編『体系物語文学史』第四卷、有精堂、一九八九年一月〕

「〔翻〕早大図書館蔵教林文庫本翻刻（四） ― 山王関係資料二種」〔『調査研究報告』一〇、一九八九年三月〕

「『水鏡』 ― 仏法思想に基づく史観」〔『解釈と鑑賞』五四―三、一九八九年三月〕

「中世の歴史叙述研究の軌跡と展望」〔『解釈と鑑賞』五四―三、一九八九年三月〕

- 「宇治拾遺物語の表現時空 ―ひしめくもの」(『国文学研究資料館紀要』一五、一九八九年三月)
- 「仏伝と絵解き」(『絵解き 資料と研究(西尾光一先生古稀記念論集)』三弥井書店、一九八九年七月)
- 「『江都督納言願文集』の世界(三) ―中宮賢子追善願文をめぐって」(『中世文学研究』一五、一九八九年八月)
- 「後世からの逆照射 ―続本朝往生伝を通して」(『国文学』三四―一〇、一九八九年八月)
- 「きのこの話 ―説話の本草学」(『日本古典文学会々報』一一七、一九九〇年一月)
- 「物語会議 ―語りと物語事典」(共著、『国文学』三五―一、一九九〇年一月)
- 「中世・庶民の話し方 ―説話集の中の人々」(『言語』一九―二、大修館書店、一九九〇年二月)
- 「イエール大学蔵・日本文書コレクション目録解題」(『調査研究報告』一一、一九九〇年三月)
- 「〔翻〕早大図書館蔵教林文庫本翻刻(五) ―山王関係資料二種」(『調査研究報告』一一、一九九〇年三月)
- 「宇治拾遺物語論 ―〈もどき〉の文芸」(『国文学研究資料館紀要』一六、一九九〇年三月)
- 「〔シンポジウム〕報告 中世文学の範囲」(『中世文学』三五、一九九〇年六月)
- 「『江都督納言願文集』の世界(四) ―江家をめぐる」(『中世文学研究』一六、一九九〇年八月)
- 「地獄絵と平安朝の文芸」(『解釈と鑑賞』五五―八、一九九〇年八月)
- 「大江匡房 ―大宰府時代から」(『解釈と鑑賞』五五―一〇、一九九〇年一〇月)
- 「日本の説話」(『NHK高校講座・古典への招待(古典総合)』NHK出版、一九九一年二月)
- 「〔翻〕早大図書館蔵教林文庫翻刻(六) ―山王関係資料三種」(『調査研究報告』一二、一九九一年三月)
- 「〔翻〕安居院唱導資料纂輯」(『調査研究報告』一二、一九九一年三月)
- 「キリシタン文芸の登場」(『解釈と鑑賞』五六―三、一九九一年三月)

「真福寺藏『釈迦如来八相次第』について——中世仏伝の新資料」(『国文学研究資料館紀要』一七、一九九一年三月)

「中世天台と文学(八) 澄憲断章(上)」(『春秋』三二七、春秋社、一九九一年三月)

「大谷大学図書館蔵『扶説鈔』について」(『説話・伝承学会編『説話の国際比較』桜楓社、一九九一年四月)

「中世天台と文学(九) 澄憲断章(下)」(『春秋』三三八、一九九一年四月)

「宇治拾遺物語と『猿楽』」(水原一・広川勝美編『伝承の古層——歴史・軍記・神話』桜楓社、一九九一年五月)

「今昔物語集の表現空間——「遙二」と「只独り」」(『説話と説話文学の会編『説話論集 第一集(説話文学の方法)』清文堂出版、一九九一年五月)

「実語と妄語の〈説話〉史」(『日本文学史を読む 二(古代後期)』有精堂出版、一九九一年五月)

「説話の場と語り——比喩表現をめぐる」(『説話の講座 第一卷(説話とは何か)』勉誠社、一九九一年六月)

「仏伝と絵解きⅡ——中世仏伝の様相」(『絵解き研究』一三、絵解き研究会、一九九一年六月)

「『江都督納言願文集』の世界(五)——白河院と法勝寺関連願文」(『中世文学研究』一七、一九九一年八月)

「説話の言説」(『説話の講座 第二卷(説話の言説)』勉誠社、一九九一年九月)

「大鏡の構造——『院政の陰画』としての花山院」(『解釈と鑑賞』五六—一〇、一九九一年一〇月)

「東大寺諷誦文稿の言説——唱導の表現」(『国語と国文学』六八—一一、東京大学国語国文学会、一九九一年一月)

「御霊信仰論——田楽と御霊絵巻から」(赤坂憲雄編『供儀の深層へ』新曜社、一九九二年二月)

「(翻) 安居院唱導資料纂輯(二)」(『調査研究報告』一三、一九九二年三月)

- 〔翻〕早大図書館蔵教本文庫翻刻（七）——山王関係資料三種」（『調査研究報告』一三、一九九二年三月）
- 〔翻〕真福寺蔵『釈迦如来八相次第』・翻刻」（『国文学研究資料館紀要』一八、一九九二年三月）
- 〔平成二年（自一月至二月）国語国文学界の展望（三）中古（後期物語・説話）』（『文学・語学』一三三、一九九二年三月）
- 〔画中詞の宇宙——物語と絵画のはざま』（『日本文学』四一―一七、一九九二年七月）
- 〔『江都督納言願文集』の世界（六）——白河院関連願文をめぐる』（『中世文学研究』一八、一九九二年八月）
- 〔和辻哲郎——精神史と古典文学』（『解釈と鑑賞』五七―八、一九九二年八月）
- 〔紫雲出山幻想——讃岐源太夫と浦島太郎』（『日本「神話・伝説」総覧』歴史読本特別増刊事典シリーズ、新人物往来社、一九九二年一〇月）
- 〔法会の時空——方法としての〈場〉』（『日本文学』四一―一〇、一九九二年一〇月）
- 〔『大鏡』——法会の時空』（『解釈と鑑賞』五七―一二、一九九二年二月）
- 〔説話にみる仏教観』（『日本人と仏教』入門講座・第六分冊、日本通信教育連盟、一九九三年）
- 〔翻〕早大図書館蔵教本文庫本翻刻（八）——説教資料三種』（『調査研究報告』一四、一九九三年三月）
- 〔宇治拾遺物語絵巻をめぐる』（『国文学研究資料館紀要』一九、一九九三年三月）
- 〔山王信仰と文芸（『解釈と鑑賞』五八―三、一九九三年三月）
- 〔中世の唱導と寺院資料——真福寺大須文庫を中心に』（『国文学研究資料館講演集』一四、一九九三年三月）
- 〔平成三年（自一月至二月）国語国文学界の展望（三）中世 仏教文学』（『文学・語学』一三七、一九九三年三月）

「琉球神道記の世界」(『仏教文学』一七、一九九三年三月)

「唐物語の表現形成」(和漢比較文学会編『和漢比較文学叢書(四) 中古文学と漢文学』二二) 汲古書院、一九九三年三月)

「〈もと〉の指向 ―中世の研究展望―」(『日本文学』四二一六、一九九三年六月)

「特集・柳田国男 ―その根源と可能性を求めて― 物語・説話研究における柳田国男」(『国文学』三八一八、一九九三年七月)

「野馬台詩の言語宇宙 ―未来記とその注釈―」(『思想』八二九、岩波書店、一九九三年七月)

「きこりの歌 ―今様と説話―」(『中世文学研究』一九、一九九三年八月)

「書きたいテーマ、出したい本 説話の本草学」(『出版ニュース』一六四五、一九九三年一〇月)

「市の文学」(『国語と国文学』七〇―一一、一九九三年一月)

「『物語り』の風景 ―チェスター・ビートイ・コレクションの一考察―」(『秘蔵日本美術大観 五 チェスター・ビートイ・ライブラリー』講談社、一九九三年一月)

「中世笑話の位相 ―『今昔物語集』前後―」(『日本の美学』二〇、ぺりかん社、一九九三年一月)

「世界の喩 ―説話のおもしろさ―」(『解釈と鑑賞』五八―一二、一九九三年二月)

「説話と注釈 ―『歌行詩』の野馬台詩注から―」(和漢比較文学会編『和漢比較文学叢書(二四) 説話文学と漢文学』 汲古書院、一九九四年二月)

「竹から生まれた篁」(奥津春雄編『日本文学・語学論』翰林書房、一九九四年二月)

「(翻) 安居院唱導資料纂輯(四)」(『調査研究報告』一五、一九九四年三月)

「チェスター・ビーター・ライブラリ所蔵絵巻・絵本解題目録稿解説」〔調査研究報告〕一五、一九九四年三月)

「貞慶『表白集』小考」〔国文学研究資料館紀要〕二〇、一九九四年三月)

「願文・表白を中心に」〔白居易研究構座 第四卷 (日本における受容 散文篇)〕勉誠社、一九九四年五月)

「説話研究の現在」〔説話文学研究〕二九、一九九四年六月)

「袋中の夢」〔大法輪』法輪閣、一九九四年六月)

「大江匡房の遊女記」〔中世文学研究〕二〇、一九九四年八月)

「牛になる人」〔古代文学講座 六 (人々のざわめき)〕勉誠社、一九九四年十二月)

「古代・中世のことわざ探訪 二「鳥無き鳥のかはほり」」〔言語〕二四―二、大修館書店、一九九五年二月)

「尼寺の蔵書 ―宝鏡寺の場合」〔新日本古典文学大系月報〕五八、岩波書店、一九九五年二月)

「〔翻〕安居院唱導資料纂輯 (五)」〔調査研究報告〕一六、一九九五年三月)

「唱導 ―安居院澄憲をめぐる」〔岩波講座日本文学と仏教 第九卷 (古典文学と仏教)〕岩波書店、一九九五年三月)

三月)

「表白」〔仏教文学講座 第八卷 (唱導の文学)〕勉誠社、一九九五年三月)

「和歌と唱導の言説をめぐる」〔国文学研究資料館紀要〕二二、一九九五年三月)

「研究会の記録 説話の女、絵巻の女」〔総合女性史研究会〕一二―四八、一九九五年五月)

「〔翻〕善通寺蔵『諸流物語』をめぐる」〔中四国中世文学研究会編『中世文学研究』和泉書院、一九九五年六月)

「古代・中世のことわざ探訪 六「狸の京上り」」(『言語』二四一六、一九九五年六月)

「小野小町の実像・虚像 中世説話の小町」(『解釈と鑑賞』六〇一八、一九九五年八月)

「善通寺蔵『印書寮事集』について」(『中世文学研究』二二、一九九五年八月)

「異界・悪鬼との交差 ―『今昔物語集』を中心に」(『国文学』四〇一二、一九九五年一〇月)

「古代・中世のことわざ探訪 一〇「不信の亀は甲破る」」(『言語』二四一〇、一九九五年一〇月)

「大江匡房の時代 大江匡房・院政初期文学史の断面」(『解釈と鑑賞』六〇一〇、一九九五年一〇月)

「神祇信仰と中世文学」(『岩波講座 日本文学史 第五卷 一三・一四世紀の文学』岩波書店、一九九五年一月)

「古代・中世のことわざ探訪 一四「上見ぬ鷺」」(『言語』二五一二、一九九六年二月)

「妖怪の博物学」(『国文学』四一四、一九九六年三月)

「仏教文学のテキスト学 ―唱導・注釈・聞書」(日本仏教研究会編『日本の仏教 第五号(ハンドブック日本仏教研究)』法蔵館、一九九六年四月)

「古代・中世のことわざ探訪 一八「山の芋が鰻になる」」(『言語』二五一六、一九九六年六月)

「伊勢をめざした僧 ―行基の伊勢参宮をめぐる」(『語文』九五、日本大学国文学会、一九九六年六月)

「中世唱導文芸断章 ―真福寺蔵『書集作抄』をめぐる」(今成元昭編『仏教文学の構想』新典社、一九九六年七月)

「弘前市立図書館蔵『仏大河飛行』考」(『中世文学研究』二二、一九九六年八月)

「古代・中世のことわざ探訪 二二「鬼に神とられたる」」(『言語』二五一一〇、一九九六年一〇月)

「古代の異国・異国人論 東大寺諷誦文稿に見る異世界」(『解釈と鑑賞』六一―一〇、一九九六年一〇月)

「メディアと文学表現 ―日本文学科創設四〇周年・大会シンポジウム報告」(『立教大学日本文学』七七、一九九六年十二月)

「和歌・漢詩文と『法華経』 大江匡房の『法華経賦』」(『解釈と鑑賞』六一―一二、一九九六年十二月)

「『聖徳太子未来記』とは何か★(聖徳太子争点を解く二一の結論)―(聖徳太子七つの争点)」(『歴史読本』四

一(二〇)、新人物往来社、一九九六年十二月)

「『往生絵巻』と『今昔物語集』」(『芥川龍之介全集月報 一五』岩波書店、一九九七年一月)

「南方熊楠の今昔物語集 ―説話学の階梯・明治篇」(『文学』八一―一、一九九七年一月)

「『十二類絵巻』を読む」(『特定研究年報』(国文学研究資料館)九五、一九九七年二月)

「説話と物語文学はどう違うのか」(『国文学』四二―二、一九九七年二月)

「稲荷と唱導資料 ―表白二題」(『朱』四〇、伏見稲荷社、一九九七年三月)

「中世の法華講会」(『解釈と鑑賞』六二―三、一九九七年三月)

「尼公の夢と仏教説話 ―夢が開く豊かな世界」(『週刊朝日百科・日本の国宝 七 奈良』朝日新聞社、一九九七年四月)

「説話資料としての『職原抄』注釈 ―関東系を中心に」(『説話文学研究』三二、一九九七年六月)

「研究再編の時代」(『週刊読書人』一九九七年七月四日号・二一九二)

「スペンサー本『百鬼夜行絵巻』について ―詞書を中心に」(『中世文学研究』二三、一九九七年八月)

「伊勢のみつかしは ―神祇書と歌語」(『有吉保編『和歌文学の伝統』角川書店、一九九七年八月)

- 「聖徳太子未来記の生成 —もうひとつの歴史記述」(『文学』八―四、一九九七年一〇月)
- 「『明月記』の怪異・異類 —覚書として」(『明月記研究』二、明月記研究会、一九九七年十一月)
- 「徒然草にみる神道 —慈遍との関連から」(『解釈と鑑賞』六二―一一、一九九七年十一月)
- 「〈神便鬼毒酒〉を呑む」(『季刊文学増刊 酒と日本文化』岩波書店、一九九七年二月)
- 「〈説話〉の悲恋 —今昔物語集を中心に」(久保朝孝編『悲恋の古典文学』世界思想社、一九九七年二月)
- 「中世の注釈を読む —読みの迷路」(『中世の知と学』森話社、一九九七年二月)
- 「尼寺の調査と源氏物語」(『むらさき』三四、紫式部学会、一九九七年二月)
- 「写し・似せ・よそおうものの現象論」(『日本文学』四七―一、一九九八年一月)
- 「〈絵解き〉をどうみるか」(『国文学』四三―二、一九九八年二月)
- 「文覚の勧進帳をめぐる」(『軍記文学の系譜と展開 —梶原正昭先生古稀記念論文集』汲古書院、一九九八年三月)
- 「名の語り手 —説話の語り」(『文学』九―二、一九九八年四月)
- 「〈遣老伝〉から『遣老説伝』へ —琉球の説話と歴史記述」(『文学』九―三、一九九八年七月)
- 「鳴動と託宣 —〈神〉の声」(『中世文学研究』二四、一九九八年八月)
- 「物語論のなかの『平家物語』」(山下宏明編『平家物語批評と文化史(軍記文学研究叢書七)』汲古書院、一九九八年二月)
- 「沖繩の縁起 —『琉球国由来記』から」(『解釈と鑑賞』六三―一二、一九九八年二月)
- 「中世文学から世界の回路へ」(『立教』一六八、一九九九年)

「文学の歴史と歴史の文学——中世日本紀研究から」(『日本歴史』六〇八、吉川弘文館、一九九九年一月)

「南方熊楠の今昔物語集——明治篇・補遺」(『熊楠研究』(南方熊楠資料研究会)一、一九九九年二月)

「中世説話と日本紀」(『解釈と鑑賞』六四—三、一九九九年三月)

「中世の未来記と注釈」(『中世文学』四四、一九九九年五月)

「泰山逍遙」(『中世文学研究』二五、一九九九年八月)

「法勝寺御八講問答記」天承元年条本文」(共著、『南都仏教』七七(『法勝寺御八講問答記』特集号—本文編)、

一九九九年一〇月)

「法勝寺御八講の論義表白——十二卷本「表白集」を中心に」(『南都仏教』七七、一九九九年一〇月)

「寺院の文庫と海外流出資料」(『こだま』(金沢大学附属図書館報)一三五、一九九九年一〇月)

「今昔物語集・宇治拾遺物語名言集」(『別冊国文学』五一 日本 の 古 典 名 言 必 携 〈 作 品 作 家 別 〉、一 九 九 九 年 一 一 月)

「烏亡問答鈔」(国文学研究資料館編『真福寺善本叢刊 中世唱導資料集 第一期第四卷』臨川書店、二〇〇〇年二月)

「諸諷誦」(国文学研究資料館編『真福寺善本叢刊 中世唱導資料集 第一期第四卷』臨川書店、二〇〇〇年二月)

「南方熊楠と今昔物語集——大正期を中心に」(『熊楠ワークス』一三、南方熊楠顕彰会、二〇〇〇年二月)

「南方熊楠の今昔物語集——説話学の階梯・大正篇 一」(『熊楠研究』二、二〇〇〇年二月)

「西行と聖地——四国の旅から」(『解釈と鑑賞』六五—三、二〇〇〇年三月)

「唱導と呪歌——和歌をよむ場」(『国文学』四五—五、二〇〇〇年四月)

- 「軍記文学と説話」（梶原正昭編『軍記文学とその周縁（軍記文学研究叢書 一）』汲古書院、二〇〇〇年四月）
- 「老いの表現史」（宮田登・新谷尚紀編『往生考 ―日本人の生・老・死』小学館、二〇〇〇年五月）
- 「中世日本紀をめぐる ―言説としての日本紀から未来記まで」（『民衆史研究』五九、二〇〇〇年五月）
- 「説話の輪郭 ―説話学の階梯・その揺籃期をめぐる」（『文学』一四、二〇〇〇年七月）
- 「酒吞童子のふるさとを往く」（『ものがたり 日本列島に生きた人たち 六 伝承と文学 上』岩波書店、二〇〇〇年一〇月）
- 「口伝の位相」（『歴史評論』六〇七（特集 中世社会とことば）、二〇〇〇年十一月）
- 「釈迦如来八相次第」（国文学研究資料館編『真福寺善本叢刊 中世仏伝集 第一期第五卷』臨川書店、二〇〇〇年十一月）
- 「通俗釈尊伝記」（国文学研究資料館編『真福寺善本叢刊 中世仏伝集 第一期第五卷』臨川書店、二〇〇〇年一月）
- 「金言類聚抄」（国文学研究資料館編『真福寺善本叢刊 中世仏伝集 第一期第五卷』臨川書店、二〇〇〇年一月）
- 「説話を通して人々は異界を体験し、生きる力を得た。」（『週刊朝日百科・世界の文学 八三 今昔物語集・宇治拾遺物語』朝日新聞社、二〇〇一年二月）
- 「中世の道化と笑い」（『週刊朝日百科・世界の文学 八三 今昔物語集・宇治拾遺物語』朝日新聞社、二〇〇一年二月）
- 「台北・北京における和古書及び絵画資料についての覚え書き」（『中国に伝存の日本関係典籍と文化財』（国際シ

ンポジウム 第一七集 国際日本文化研究センター、二〇〇一年二月)

「声を聞くもの ― 唱導と大衆僉議」(『国文学研究』一三三、二〇〇一年三月)

「南方熊楠の今昔物語集 ― 説話学の階梯・大正篇 二」(『熊楠研究』三、二〇〇一年三月)

「資料紹介 立教大学図書館蔵『桃太郎絵巻』」(『立教大学大学院日本文学論叢』一、二〇〇一年三月)

「キリシタン文学と仏教 ― シンポジウムにむけて」(『仏教文学』二五、二〇〇一年三月)

「金沢文庫の唱導資料をめぐる」(『仏教文学』二五、二〇〇一年三月)

「南方熊楠 ― 教養の権化」(『世界思想』二八、世界思想社、二〇〇一年四月)

「仏教の言葉」(『言説の制度 叢書・想像する平安文学 第三卷』勉誠出版、二〇〇一年五月)

「『妙法天経解釈』をめぐる序」(『宝鏡寺蔵『妙法天経解釈』全注釈と研究』笠間書院、二〇〇一年七月)

「吉備大臣入唐絵巻とその周辺」(『立教大学日本文学』八六、二〇〇一年七月)

「故事の変転 ― 諺・説話論」(『和漢比較文学』二七、和漢比較文学会、二〇〇一年八月)

「説話学の階梯 ― 近世随筆から南方熊楠へ」(『国文学』四六一一〇、二〇〇一年八月)

「院政期の文化と時代 ― 〈見る〉こととの政治文化学」(院政期文化研究会編『権力と文化 院政期文化論集 第一卷』森話社、二〇〇一年九月)

「キリシタン文学と仏伝 ― 異文化交流の表現史」(『文学』二一五、二〇〇一年九月)

「安倍晴明と異界」(『高校国語教育』二〇〇一年冬号、三省堂、二〇〇一年二月)

「文庫調査から見る近代」(『岩波講座 近代日本の文化史』月報二、岩波書店、二〇〇二年一月)

「異文化交流の文化史へ ― 海外資料調査と国際会議」(小島・小松編『異文化理解の視座世界から見た日本、日

本から見た世界』東京大学出版会、二〇〇二年三月)

「南方熊楠の今昔物語集——説話学の階梯・大正篇 三」『熊楠研究』四、二〇〇二年三月)

「稲荷山の老狐」(『朱』四五、二〇〇二年三月)

「写本絵巻・絵本総説」(国文学研究資料館編『チェスター・ビーティ・ライブラリイ解題目録 解題篇』勉誠出版、二〇〇二年三月)

「『大鏡』の道真像」(『解釈と鑑賞』六七―四、二〇〇二年四月)

「羅生門の物語——説話に見る中世の京都〇一」(『ひととき』一一、J.R東海、二〇〇二年六月)

「老いを「発見」するとき——説話に見る中世の京都〇二」(『ひととき』一二、二〇〇二年七月)

「漢字文化圏における漢文説話・小説の問題——一六から一八世紀を中心に」(『変動期的東亜社会与文化』天津人民出版社、二〇〇二年八月)

「在米絵巻訪書おぼえがき」(『立教大学大学院日本文学論叢』二、二〇〇二年九月)

「『敦煌願文集』と日本中世の唱導資料」(楊儒賓・張寶三共編『日本漢学研究初探』勉誠出版、二〇〇二年一月)

「保輔・保昌兄弟をめぐる説話」(世界宝塚大劇場雪組公演『春麗の淡き光に』阪急コーポレーション、二〇〇三年一月)

「今昔物語集の世界」(『今昔物語集を学ぶ人のために』世界思想社、二〇〇三年一月)

「欠字」(『今昔物語集を学ぶ人のために』世界思想社、二〇〇三年一月)

「伴大納言絵巻・作品論」(『新しい作品論』へ、〈新しい教材論〉へ——文学研究と国語教育研究の交差 古典

編 三『右文書院、二〇〇三年一月』

「梅から生まれた道真」(和漢比較文学会編『菅原道真論集』勉強出版、二〇〇三年一月)

「吉備真備入唐譚の生成と展開」(大隅和雄編『文化史の諸相』吉川弘文館、二〇〇三年二月)

「絵画と文字」(『立教大学日本学研究所年報』二(特集 日本文化の境界と交通 ―二〇〇一年国際シンポジウムの記録、第四セッション: 絵画と文字)、二〇〇三年三月)

「『平家物語』の転生と再生」(『平家物語』の転生と再生 笠間書院、二〇〇三年三月)

「聖地の表現世界 ―厳島参詣と願文・表白」(『平家物語』の転生と再生 笠間書院、二〇〇三年三月)

「イエール大学蔵『元徳二年後宇多院聖忌曼荼羅供』」(『平家物語』の転生と再生 笠間書院、二〇〇三年三月)

「コラム 頼朝武蔵入りと散歩道の夢想」(『平家物語』の転生と再生 笠間書院、二〇〇三年三月)

「南方熊楠の今昔物語集 ―説話学の階梯・大正篇 四」(『熊楠研究』五、二〇〇三年三月)

「議会図書館及びイエール大学所蔵朝河収集本をめぐって」(AASパネル発表、未刊(口頭発表原稿)、二〇〇三年三月)

「中世文芸と仏教」(大久保・佐藤・末木他編『日本仏教三四の鍵』春秋社、二〇〇三年五月)

「絵巻の画中詞と言説 ―絵解きの視野から」(『解釈と鑑賞』六八―六、二〇〇三年六月)

「南方熊楠の今昔物語集 ―説話学の階梯・大正篇『十二支考』から」(説話と説話文学の会編『説話論集 第一

二集(今昔物語集)』清文堂出版、二〇〇三年六月)

「未来記の射程」(『説話文学研究』三八、二〇〇三年六月)

「日本の絵巻の文字と絵画」(『立教大学ドイツ文学科国際シンポジウム』二〇〇三年七月)

「御記文という名の未来記」(錦仁・小川豊生・伊藤聡編『偽書』の生成 ―中世的思考と表現『森話社、二〇

〇三年十一月)

「『日本靈異記』の語戯をめぐって ―脱構築をめざして」(『日本靈異記を読む』吉川弘文館、二〇〇四年一月)

「『今昔物語集』的翻訳」(『世界語境中的《源氏物語》』北京日本学研究中心文学研究室、二〇〇四年二月)

「姫の昇天と和歌」(『歌を描く 絵を詠む』サントリ―美術館、二〇〇四年二月)

「興福寺の説話世界 ―猿沢池と龍神」(『興福』一二三、興福寺、二〇〇四年三月)

「円仁の旅と赤山法華院」(『立教大学日本学研究所年報』三、二〇〇四年三月)

「南方熊楠の今昔物語集 ―説話学の階梯・大正篇 五」(『熊楠研究』六、二〇〇四年三月)

「南方熊楠と沖縄学」(『南方熊楠の学際的研究』プロジェクト報告書、奈良女子大学大学院人間文化研究科学術

交流センター、二〇〇四年三月)

「『釈迦の本地』の絵巻を読む ―仏伝の世界」(『心』武蔵野大学日曜講演集、武蔵野大学、二〇〇四年四月)

「琉球文学と琉球をめぐる文学 ―東アジアの漢文説話・侵略文学」(『日本文学』五三一四、二〇〇四年四月)

「蟬丸伝承をさぐる ―『源氏物語説話論』のために」(『源氏研究』九号、翰林書房、二〇〇四年四月)

「法会文芸の提唱 ―宗教文化研究と説話の〈場〉」(『説話文学研究』三九、二〇〇四年六月)

「『侵略文学』の位相 ―蒙古襲来と託宣・未来記を中心に、異文化交流の文学史をもとめて」(『国語と国文学』

八一―八、二〇〇四年八月)

「古典文学に見る日本海 ―『海域・海洋文学』の可能性」(『解釈と鑑賞』六九―一一、二〇〇四年十一月)

「お伽草子の絵巻世界 ―ものという動物たち」(『日本文学文化』四、東洋大学日本文学会、二〇〇四年十二月)

「イメージの釈迦——物語と絵——」(『CAHIERS』11、アルザス・欧州日本学研究所研究講演集、アルザス日本学研究所、二〇〇五年)

「〈仏教的想像力〉の沃野へ——露伴と熊楠」(『文学』六—一、二〇〇五年一月)

「水辺と街道の遊女——中世の物語風景から」(『立教大学日本学研究所年報』四、二〇〇五年三月)

「南方熊楠の今昔物語集——説話学の階梯・大正篇 六」(『熊楠研究』七、二〇〇五年三月)

「日本文学と巡礼——創造される聖地」(『解釈と鑑賞』七〇—五、二〇〇五年五月)

「東アジアという視座」(『貴志俊彦・荒野泰典・小風秀雅編『東アジア』の時代性』溪水社、二〇〇五年六月)

「『野馬台詩』注釈・拾穂」(『日本文学』五四—七、二〇〇五年七月)

「熊楠と沖繩——安恭書簡と『球陽』写本をめぐる」(『国文学』五〇—八、二〇〇五年八月)

「序言 アルザスから名古屋へ——日仏学術交流の旅」(『アジア遊学』七九(共生する神・人・仏——日本とフランスの学術交流)、勉誠出版、二〇〇五年九月)

「その後の「月のねずみ」考」(『アジア遊学』七九(共生する神・人・仏——日本とフランスの学術交流)、勉誠出版、二〇〇五年九月)

「東アジアの仏伝をたどる——比較説話学の起点」(『文学』六—六、二〇〇五年十一月)

「田仁の求法の旅」(『解釈と鑑賞』七一—三、二〇〇六年三月)

「南方熊楠の今昔物語集——説話学の階梯・昭和篇」(『熊楠研究』八、二〇〇六年三月)

「琉球の文字資料」(『人文資料学の現在——立教大学人文叢書 一』春風社、二〇〇六年四月)

「仏教儀礼と和歌——〈法会文芸〉として」(『和歌をひらく 第四卷 和歌とウタの出会い』岩波書店、二〇〇

六年四月)

「スペインサー本『百鬼夜行絵巻』と幕末の『平家物語』——冷泉為恭と遷都の物語」(『文学』七一三、二〇〇六年五月)

「琉球文学の中世 講演・パネルディスカッション」(『琉球文学の中世』によせて)(『中世文学』五一、二〇〇六年六月)

「絵巻のことばとイメージ——『釈迦の本地』をめぐる」(『石川透編『魅力の奈良絵本・絵巻』三弥井書店、二〇〇六年六月)

「『琉球神道記』の龍宮世界」(『立教大学日本文学』九六、二〇〇六年七月)

「尚巴志の物語——三山統一神話の再検証」(『解釈と鑑賞』七一—一〇、二〇〇六年一〇月)

「メディア・媒体——絵画を中心に パネリストの発表を受けて」(中世文学会編『中世文学研究は日本文化を解明できるか 中世文学会創設50周年記念シンポジウム「中世文学研究の過去・現在・未来」の記録』笠間書院、二〇〇六年一〇月)

「死の向こう側：身体・イメージ・パロディ」(『死生学研究』八、東京大学COEプロジェクト、二〇〇六年一月)

「Wort und Bild in japanischen Bildrollen」(『SCHRIFTLICHKEIT UND BILDLICHKEIT』Wilhelm Fink、二〇〇七年)

「今昔物語集断簡」(『吉備大臣物語』解題(『大東急記念文庫善本叢刊 中古中世篇第一巻・物語』汲古書院、二〇〇七年二月)

「和歌説話の位相」(『解釈と鑑賞』七二―三、二〇〇七年三月)

「反町目録の再検証 ―総合目録作成のために」(『アメリカに渡った日本の図像・文芸の研究』立教SFR報告書、二〇〇七年三月)

「『百鬼夜行絵巻』とパロディ」(『アジア文化研究別冊』一六、国際基督教大学アジア文化研究所、二〇〇七年三月)

「説話と狂言の表現空間」(『能と狂言』五、能楽学会、二〇〇七年五月)

「古典学の再構築をめざして ―平安文学研究の内なる〈他者性〉」(『中古文学』七九、中古文学会、二〇〇七年六月)

「東アジアの比較説話の視界 ―『新羅殊異伝』を読む」(『アジア遊学』一〇〇(アジア遊学一〇〇号記念アジア遊学一〇〇号の提案 ―これからの研究構想を語る)、勉誠出版、二〇〇七年七月)

「説話と説話文学の本質 ―東アジアの比較説話学へ」(『解釈と鑑賞』七二―八、二〇〇七年八月)

「『法会文芸』としての源氏供養 ―表白から物語へ」(加藤睦・小嶋菜温子編『源氏物語と和歌を学ぶ人のために』世界思想社、二〇〇七年一〇月)

「動物たちの楽園とその崩壊 ―『鳥獣戯画』を読む」(『鳥獣戯画がやってきた! ―『鳥獣人物戯画絵巻』の全貌』サントリー美術館、二〇〇七年十一月)

「宇治拾遺物語絵巻をめぐる」(名和修監修『宇治拾遺物語絵巻 ―陽明文庫蔵重要美術品』勉誠出版、二〇〇八年一月)

「山階寺涅槃会と本生譚をめぐる ―仏伝と〈法会文芸〉」(『三宝絵を読む』吉川弘文館、二〇〇八年二月)

「説話と口承文芸」（日本口承文芸学会編『つたえる（シリーズことばの世界 一）』三弥井書店、二〇〇八年二月）

「〈聖徳太子未来記〉と聖徳太子伝研究」（中部大学国際人間学研究所編『アリーナ二〇〇八 第五号』人間社、二〇〇八年三月）

「日本中世の肖像とその説話言説をめぐる」（『肖像と個性 立教大学人文叢書 三』春風社、二〇〇八年三月）

「東アジアの伝をたどる・補説」（説話・伝承学会編『説話・伝承の脱領域 説話・伝承学会創立二十五周年記念論集』岩田書院、二〇〇八年三月）

「南方熊楠の孫文評をどう読むか」（『孫文研究』四三、孫文研究会、二〇〇八年三月）

「『釈迦の本地』と伝の世界」（小林保治監修『中世文学の回廊』勉誠出版、二〇〇八年三月）

「王の生と死をめぐる儀礼と法会文芸——堀河院の死と安德帝の生」（『国立歴史民俗博物館研究報告』一四一、二〇〇八年三月）

「『釈迦の本地』の絵と物語を読む」（『アジア遊学』一〇九（絵を読む 文字を見る 日本文学とその媒体）、勉誠出版、二〇〇八年四月）

「南方熊楠と『今昔物語集』——比較説話学の新たな地平」（『熊楠ワークス』三一、二〇〇八年四月）

「神仏との交感——感応と霊験の物語」（『水声通信』四（三）（特集 交感のポエティクス）、水声社、二〇〇八年五月）

「お伽草子と説話世界の『源氏物語』」（『源氏物語と江戸文化 可視化される雅俗』森話社、二〇〇八年五月）

「お伽草子異類物の形成と環境——『十二類絵巻』への道」（『文学』九一三、二〇〇八年五月）

- 「歴史と古典をひもとく」(『週刊読書人』二〇〇八年六月二七日号・二七四四)
- 「日本文学(古典)研究 〇七」(『文芸年鑑 二〇〇八』新潮社、二〇〇八年六月)
- 「反町目録の再検証 —— 総合目録作成のために」(『立教大学日本学研究所年報』七(特集 スペンサーコレク
ション調査から) Review of Sorimachi catalogue : for making a comprehensive list' 二〇〇八年八月)
- 「東アジアの〈東西交流文学〉の可能性」(『アジア遊学』一一四(東アジアの文学圏)、勉誠出版、二〇〇八年九
月)
- 「五台山逍遙 —— 東アジアの宗教センター」(『巡礼記研究』五、巡礼記研究会、二〇〇八年九月)
- 「古典文学における〈食〉の登場」(『文学に描かれた日本の「食」のすがた』(解釈と鑑賞別冊) 至文堂、二〇〇
八年一〇月)
- 「『古今著聞集』の絵画論」(『解釈と鑑賞』七三―一二、二〇〇八年二月)
- 「今昔物語集とその時代」(『異文化交流』(『今昔物語集を読む』吉川弘文館、二〇〇八年二月)
- 「異文化交流」(『今昔物語集を読む』吉川弘文館、二〇〇八年二月)
- 「『義経地獄破り』に牛がいた!」(勉誠出版・メールマガジン、二〇〇九年一月)
- 「東アジアにおける日本文学 —— 研究の動向と展望」(『日語学習と研究』一四一(北京・中国日語教学研究会)
日語学習と研究編輯委員会、二〇〇九年二月)
- 「須弥山世界の図像と言説を読む」(『日本文学の創造物 —— 書籍・写本・絵巻 国際シンポジウム』国文学研究
資料館、二〇〇九年二月)
- 「写す身体と見る身体 —— 絵巻をひもとくこと」(ハルオ・シラネ編『越境する日本文学研究 —— カノン形成・ジェ

ンダー・メディア』勉誠出版、二〇〇九年四月)

「南方熊楠と熊野の伝承世界」(『熊楠ワークス』三三、二〇〇九年四月)

「日本文学(古典)研究 〇八」(『文芸年鑑二〇〇九』新潮社、二〇〇九年六月)

「釈迦の生涯の物語を読む」(『浅草寺文化講座』五三集、浅草寺、二〇〇九年七月)

「『釈迦の本地』の物語と図像」(『文学』一〇一五、二〇〇九年九月・一〇月)

「序言」(『アジア遊学』一二七(キリシタン文化と日欧交流) 勉誠出版、二〇〇九年十一月)

「キリシタン文学と天狗 —— 『サントスの御作業』を中心に」(『アジア遊学』一二七(キリシタン文化と日欧交流)、勉誠出版、二〇〇九年十一月)

「天草本『平家物語』の語り」(『アジア遊学』一二七(キリシタン文化と日欧交流)、勉誠出版、二〇〇九年十一月)

「志度寺縁起の竜宮と閻魔」(『志度寺縁起絵シンポジウム配付資料 瀬戸内の祈りとくらし』志度寺研究会、二〇〇九年十二月)

「説話のタブー、タブーの説話 禁忌の表現史」(『ストラスブール大学第四回日本学シンポジウム』ストラスブール大学、二〇一〇年)

「『薩琉軍記』解題 —— 東アジアと侵略文学」(池宮正治・小峯和明編『古琉球をめぐる文学言説と資料学 東アジアからのまなざし』三弥井書店、二〇一〇年一月)

「『薩琉軍記』に見る島津氏の琉球出兵 —— 日本人はどのように語り伝えてきたか」(『史苑』一八三、立教大学史学会、二〇一〇年三月)

「お伽草子と狂言——料理・異類・争論」(『アジア文化研究 別冊』一八(続・パロディと日本文化)、国際基督教大学アジア文化研究所、二〇一〇年三月)

「東アジアの説話世界」(『漢文文化圏の説話世界』竹林舎、二〇一〇年四月)

「『伊勢物語』の註釈と言説世界」(山本登朗編『伊勢物語享受の展開』竹林舎、二〇一〇年五月)

「物語と絵画をめぐる断章(第三章パフォーマンスの中の図像)」(川田順造編『響き合う異次元——音・図像・身体』平凡社、二〇一〇年五月)

「〈予言文学〉の射程——過去と未来をつなぐ」(『日本文学』五九一七、二〇一〇年七月)

「竜宮と冥界」(小松和彦監修『別冊太陽一七〇 妖怪絵巻』平凡社、二〇一〇年七月)

「東アジアの中世文学」(『解釈と鑑賞』七五—一二、二〇一〇年十二月)

「総括(特集 公開シンポジウム 朝鮮半島の文化と宗教) Summary」(『立教大学日本学研究所年報』八、二〇一一年三月)

「東アジアの法会文芸——願文を中心に」(『仏教文学』三五、二〇一一年三月)

「須弥山世界の言説と図像をめぐる」(『アジア新時代の南アジアにおける日本像 インド・SAARC諸国における日本研究の現状と必要性』海外シンポジウム報告書 一六、国際日本文化研究センター、二〇一一年三月)

「南方熊楠・比較説話学の形成——ロンドン時代を中心に」(『南方熊楠とロンドン(英語版) 南方熊楠資料の基礎研究と学際的展開』文部省科学研究費補助金研究成果報告書、二〇一一年三月)

「文学と宗教 覚え書き」(『日語学習与研究』一五三(北京・中国日語教学研究會) 日語学習与研究編輯委員會、二〇一一年四月)

「〈心耳〉の人・西郷信綱」(『西郷信綱著作集 第三卷月報』平凡社、二〇一一年六月)

「南方熊楠と熊野世界」(『アジア遊学』一四三(環境という視座 ―日本文学とエコクリティシズム)、勉誠出版、

二〇一一年七月)

「東アジアの説話圏をめぐる」(『説話文学研究』四六、二〇一一年七月)

「災害と〈予言文学〉 ―過去と未来を繋ぐ」(『図書』七五〇、岩波書店、二〇一一年八月)

「南方熊楠・東アジアへのまなざし」(『アジア遊学』一四四(南方熊楠とアジア)、勉誠出版、二〇一一年八月)

「口伝と筆録 ―語ることと書くこと」(『人文学』九四集、延世大学人文科学研究所、二〇一一年九月)

「中世日本紀の物語世界 ―〈海〉の中世神話」(新川登亀男・早川万年編『史料としての日本書紀』勉誠出版、

二〇一一年一〇月)

「世界における日本学研究の連携と次世代への継承・パネラー報告」(『日本学研究』二一、北京日本学研究会センター設立二五周年記念、学苑出版社、二〇一一年一月)

「ことわざ・物語論」(『文学』二二六、二〇一一年一月・二月)

「イメージの回廊(一) バイユーのタピスリーと絵巻展」(『図書』七五五、二〇一二年一月)

「イメージの回廊(二) 石榴天神」(『図書』七五六、二〇一二年二月)

「イメージの回廊(三) 龍宮への招待」(『図書』七五七、二〇一二年三月)

「往く人、来る人 ―東アジア・幻想の異文化交流」(『立教大学日本学研究所年報』九、二〇一二年三月)

「イメージの回廊(四) 龍宮の塔」(『図書』七五八、二〇一二年四月)

「イメージの回廊(五) 須弥山の頂上を往く」(『図書』七五九、二〇一二年五月)

「東アジア・〈知〉の遊学のために ―三冊の本」(『アジア遊学』一五〇(アジアの〈教養〉を考える ―学問のためのブックガイド)、勉誠出版、二〇一二年五月)

「未来記の変貌と再生」(上杉和彦編『経世の信仰・呪術』竹林舎、二〇一二年五月)

「イメージの回廊(六)『釈氏源流』を読む」(『図書』七六〇、二〇一二年六月)

「袋中『琉球神道記』を読む直す ―読まれざる巻一から巻三まで」(『日語学習与研究』一六三(北京・中国日語教学研究会) 日語学習与研究編輯委員会、二〇一二年六月)

「イメージの回廊(七) 摩耶とマリアの授乳」(『図書』七六一、二〇一二年七月)

「東アジアの仏伝文学・ブッダの物語と絵画を読む ―日本の『釈迦の本地』と中国の『釈氏源流』を中心に」(『論叢国語教育学』(広島大学教育学部国語教育学研究室) 復刊三、二〇一二年七月)

「南方熊楠の説話と仏教 ―仏性・性・身体」(『説話文学研究』四七、二〇一二年七月)

「東アジアの今昔物語集 ―翻訳と〈予言文学〉のことども」(『東アジアの今昔物語集 ―翻訳・変成・予言』勉誠出版、二〇一二年七月)

「(コラム三) 法会 ―物語形成の場」(『日本思想史講座 二(中世)』ぺりかん社、二〇一二年七月)

「イメージの回廊(八) 古塔断章」(『図書』七六二、二〇一二年八月)

「十六世紀を読む ―叢生の文学史へ」(『文学』一三一五、二〇一二年九月・一〇月)

「キリシタン文学と反キリシタン文学再読 ―闘う文体」(『文学』一三一五、二〇一二年九月・一〇月)

「イメージの回廊(九) 巨樹の風景」(『図書』七六三、二〇一二年九月)

「イメージの回廊(一〇)『釈迦の本地』の涅槃図」(『図書』七六四、二〇一二年一〇月)

- 「イメージの回廊（一一）敦煌の石窟を観る」（『図書』七六五、二〇一二年十一月）
- 「イメージの回廊（一二）四方四季の季節」（『図書』七六六、二〇一二年十二月）
- 「〈予言文学〉の世界、世界の〈予言文学〉」（『アジア遊学』一五九（〈予言文学〉の世界——過去と未来を繋ぐ言説）、勉誠出版、二〇一二年二月）
- 「愛宕山の太郎坊——中世天狗の一断面」（『国立能楽堂』三五二、二〇一二年二月）
- 「〈侵略文学〉の文学史・試論」（『福岡大学研究部論集 A…人文科学編』一二巻六号、二〇一三年三月）
- 「龍宮をさぐる——異界の形象」（『国文学研究資料館編』『アメリカに渡った物語絵——絵巻・屏風・絵本』ぺりかん社、二〇一三年三月）
- 「予言者・宝誌の変成——東アジアを括る」（久保田浩編『文化接触の創造力』リトン、二〇一三年四月）
- 「『説草』からみる書物の宇宙」（『日本文学』六二―四、二〇一三年四月）
- 「幸田露伴と南方熊楠——縄巻鮎の結ぶ縁」（『熊楠ワークス』四一、二〇一三年四月）
- 「東アジアの文学圏をもとめて」（『文学』一四―三（創刊八〇年記念、二〇一三年五月・六月）
- 「古典の翻訳と再創造——東アジアの『今昔物語集』」（『説話文学会編』『説話から世界をどう解き明かすのか』（説話文学会設立50周年記念シンポジウム（日本・韓国）の記録）笠間書院、二〇一三年七月）
- 「浅草寺の中世——古層を踏む」（『文学』一四―四（特集・浅草と文学）、二〇一三年七月・八月）
- 「『日本常民生活絵引』の再生——〈絵画物語論〉のために」（楊曉捷・小松和彦・荒木浩編『デジタル人文学のすすめ』勉誠出版、二〇一三年七月）
- 「弁曉草の特色と意義」（『神奈川県立金沢文庫編』『称名寺聖教 尊勝院弁曉説草 翻刻と解題』勉誠出版、二〇一

三年一〇月)

「天竺をめざした人々 ―異文化交流の文学史・求法と巡礼」(『日語学習与研究』一六八(北京・日語教学研究会) 日語学習与研究編輯委員会、二〇一三年一〇月)

「The Gannon as an Example of the “Ritual Arts and Literature”: The View from East Asia」(『ACTA ASIATICA』一〇五、東方学会、二〇一三年)

「儀礼という場―法会を中心に」(『岩波講座日本の思想 第七卷(儀礼と創造)』岩波書店、二〇一三年一二月)

【座談会・書評など】

・座談会

「いま、国文学研究は」(『わせた国文ニュース』三九、一九八三年一月)

「庶民の心をとらえる仏教文学」(『解釈と鑑賞』四八一五、一九八三年十二月)

「語りと書くこと ―平家物語へ向けて」(『日本文学』三九一六、一九九〇年六月)

「鎌倉時代物語 とはなにか」(『リポート笠間』三四、一九九三年二月)

「『南方学』への視座」(『文学』八一、一九九七年一月)

「中世仏教の臨界」(『文学』八一四、一九九七年一〇月)

「古代幻視を越えて ―古琉球の相対化をめざして」(『文学』九一三、一九九八年七月)

「源氏的なるもの」(『文学』四一四、二〇〇三年七月・八月)

「平安朝漢文学の展開 ―菅原道真から大江匡房へ」(『リポート笠間』四四、二〇〇三年十二月)

「東アジア ― 漢文文化圏を読み直す」(『文学』六―六、二〇〇五年十一月・十二月)

「食と文学」(『文学に描かれた日本の「食」のすがた』『解釈と鑑賞』別冊、至文堂、二〇〇八年一〇月)

「絵の読み方―イメージ・テクスト・メディア」(『文学』一〇―五、二〇〇九年九月・一〇月)

「日本」と「文学」を解体する 既成概念を崩し、新しい文学像をどう作るか(『リポート等間』五〇、二〇〇九年二月)

「環境という視座」(『アジア遊学』一四三(環境という視座 ― 日本文学とエコクリティシズム)、勉誠出版、二〇一二年七月)

「南方熊楠とアジア」(『アジア遊学』一四四(南方熊楠とアジア)、勉誠出版、二〇一二年八月)

・対談

「国東文麿…〈この人に聞く〉今昔物語集研究と私」(『解釈と鑑賞』四九―一一、一九八四年九月)

「河合隼雄…新釈・日本の物語(二〇) 宇治拾遺物語」(『創造の世界』八三、小学館、一九九二年八月、『河合隼雄対談集 物語をものがたる』小学館、一九九四年二月に再録)

「池宮正治…琉球文学の内と外 ― 東アジアの視界」(『解釈と鑑賞』七一―一〇、二〇〇六年一〇月)

「保立道久…古典はいつも新しい」(『本郷』七五、吉川弘文館、二〇〇八年五月)

「ハルオ・シラネ…日本文学研究の百年」(『文学』一四―一六、岩波書店、二〇一三年十一月・十二月)

・書評

「川口久雄著『絵解きの世界——敦煌からの影』・林雅彦著『日本の絵解き——資料と研究』」（『解釈と鑑賞』
四七—一一、一九八二年一〇月）

「池上洵一著『今昔物語集の世界——中世のあけぼの』」（『日本文学』三二—一二、一九八三年二月）

「森正人著『今昔物語集の生成』」（『伝承文学研究』三三、一九八六年一〇月）

「森正人著『今昔物語集の生成』」（『解釈と鑑賞』五一—一一、一九八六年一一月）

「森正人著『今昔物語集の生成』」（『説話文学研究』二二、一九八七年六月）

「藤井貞和著『物語文学成立史』」（『国文学』三三—五、一九八八年四月）

「多田一臣著『古代国家の文学——日本霊異記とその周辺』」（『国語と国文学』六六—二、一九八九年二月）

「兵藤裕己著『王権と物語』」（『週刊読書人』一九八九年一二月四日号）

「徳田和夫著『絵語りと物語り』」（『週刊読書人』一九九〇年一〇月一日号）

「川村湊著『言霊と他界』」（『週刊読書人』一九九一年三月一日号）

「バーバラ・ルーシユ著『もう一つの中世像』」（『週刊読書人』一九九一年九月一六日号）

「中瀬喜陽著『説話世界の熊野』」（『図書新聞』一九九一年一一月一日号）

「三浦佑之著『昔話にみる悪と欲望』」（『図書新聞』六月一三日号）

「古橋信孝著『神話・物語の文芸史』」（『国文学』三七—一〇、一九九二年九月）

「赤坂憲雄著『結社と王権』」（『週刊読書人』一九九三年九月一三日号）

「宮田尚著『今昔物語集震旦部考』」（『国文学研究』一〇九、一九九三年三月）

「野本寛一著『共生のフォークロア』」（『図書新聞』一九九四年六月一日号）

- 「飯倉照平著『南方熊楠』岩波ジュニア新書」（『ミナカタ通信』（南方熊楠資料研究会）三、一九九六年五月）
- 「バルナール・フランク著『風流と鬼 平安の光と闇』」（『国文学』四四―二、一九九九年二月）
- 「保立道久著『物語の中世 神話・説話・民話の歴史学』」（『日本歴史』六一七、一九九九年一〇月）
- 「阿部泰郎著『聖者の推参 ―中世の声とヲコなるもの』」（『日本文学』五一―一、二〇〇二年二月）
- 「石井正己著『柳田国男と遠野物語』」（『週刊読書人』二〇〇三年二月二二日号）
- 「錦仁『小町伝説の誕生』」（『本の旅人』角川書店、二〇〇四年七月号）
- 「今成元昭著『『方丈記』と仏教思想』」（『日蓮宗新聞』日蓮宗新聞社、二〇〇六年三月一日号）
- 「飯倉照平著『南方熊楠』」（『週刊読書人』二〇〇七年二月二日号・二六七三、二〇〇七年二月）
- 「李銘敬・小林保治著『日本仏教説話集の源流』」（『説話文学研究』四三、二〇〇八年七月）
- 「河添房江著『源氏物語と東アジア世界』」（『日本文学』五七―八、二〇〇八年八月）
- 「木村茂光著『日本中世の歴史〇― 中世社会の成り立ち』」（『週刊読書人』二〇〇九年七月二四日号）
- 「米井力也著『ギリシタンと翻訳 異文化接触の十字路』」（『説話文学研究』四五、二〇一〇年七月）

・その他

- 「『説話文学特集号誌目次一覧』（共著、檜谷昭彦編『日本の説話』（別巻）東京美術、一九七六年一〇月）
- 「短信」（『わせた国文ニュース』三一、一九七九年一月）
- 「男の穂高」（『わせた国文ニュース』三七、一九八二年一月）
- 「高知県立『山内文庫』」（『国文学研究資料館報』二三、一九八四年九月）

- 「表紙模様集成総索引」(『調査研究報告』(国文学研究資料館文献資料部) 六、一九八五年三月)
- 「早稲田大学図書館蔵教林文庫目録稿」(共著、『調査研究報告』六、一九八五年三月)
- 「台北の民間劇場」(『日本文学』三五―五、一九八六年四月)
- 「日吉山王関係目録稿(二)」(共著、『調査研究報告』八、一九八七年三月)
- 「琉球文学への旅」(『わせた国文ニュース』五五、一九九一年二月)
- 「石垣市立八重山博物館」(『国文学研究資料館報』四〇、一九九二年三月)
- 「早稲田大学図書館蔵教林文庫書目索引」(『調査研究報告』一六、一九九五年三月)
- 「西尾先生と電車で」(『絵解き研究』一五、西尾光一先生追悼号、一九九九年六月)
- 「戒台寺の一夜」(『センター通信』(北京日本学研究センター) 六六、一九九九年夏)
- 「柳絮舞ふ街で ―北京の七十九日」(『立教大学日文ニュース』四、一九九九年二月)
- 「ワシントン議会図書館の和古書資料」(『日本歴史』六二〇、二〇〇〇年一月)
- 「立教大学日本学研究所のこと」(『日本歴史』六三二、二〇〇一年一月)
- 「説話の参考文献一覧」(共編、『国文学』四六―一〇、二〇〇一年八月)
- 「ニューヨークと絵巻」(『立教大学日文ニュース』六、二〇〇一年二月)
- 「ポーランドに琉球絵巻」(『沖縄タイムス』二〇〇四年九月七日号)
- 「蔵書目録・和古書の部」(共編、『国文学』五〇―八、二〇〇五年八月)
- 「異文化交流と翻訳の東西 ―日本文学科創設五〇周年記念国際シンポジウム第三セッション報告」(『二一世紀の日本文学研究・報告書』二〇〇六年十一月)

「受賞と大曾根先生の思い出」(『日本古典文学会のあゆみ』(日本古典文学会報別冊) 日本古典文学会、二〇〇六年二月)

「川平均ちゃんから川平ひとしへ」(川平ひとし『中世和歌テキスト論』葉、笠間書院、二〇〇八年五月)

「中国古塔千年紀 ―遼の面影をもとめて」(『立教大学日文ニュース』一三、二〇〇八年二月)

「文学研究の意義 ―古典文学の立場から」(『同志社大学国文学会報』三六、二〇〇九年三月)

「馬耳山のお堂の壁画」(『Koreana 韓国の芸術と文化』二〇一〇年秋号)

「鎌倉を歩く ―新人生歓迎文学散歩」『立教大学日文ニュース』一五、二〇一〇年十二月)

「塔は時空を越えて。」(『東京人』都市出版社、二〇一一年二月号)

「『解説』大隅和雄『中世歴史と文学のあいだ 歴史文化セレクション』」(吉川弘文館、二〇一一年八月)

「刊行にあたって」(山本五月『天神の物語・和歌・絵画 ―中世の道真像』勉誠出版、二〇一二年三月)

「序」(琴栄辰『東アジア笑話比較研究』勉誠出版、二〇一二年七月)

「日文生活の十八年」(『立教大学日文ニュース』一八、二〇一三年二月)

【学術振興会科学研究費】

「安居院流を中心とする中世唱導文芸と仏事法会に関する研究」(基盤C、一九九〇年)

「中世文学における未来記の総合的研究」(基盤C、一九九六―一九九八年)

「中世・近世における琉球文学資料に関する総合的研究」(基盤B、一九九九―二〇〇一年度)

「一六―一八世紀の日本と東アジアの漢文説話類に関する総合的比較研究」(基盤B、二〇〇二―二〇〇四年度)

「一六世紀以降の日本と東アジアのキリシタン文学とその影響度をめぐる総合的比較研究」（基盤B、二〇〇五—二〇〇七年度）

「一九世紀以前の日本と東アジアの〈予言文学〉をめぐる総合的比較研究」（基盤B、二〇〇九—二〇一一年度）

＊ 以上は立教大学最終講義・配布資料（二〇一三年一月）、及び拙著『東奔西走』（笠間書院、二〇一三年三月）掲載の改訂版である（二〇一三年二月現在）。作成に際し、吉橋さやか、目黒将史、塩川和広、岡田圭介各氏及び笠間書院編集部の手力を得た。